

研究開発成果 実装支援プログラム
平成23年度 報告書

実装活動の名称 「医学的機能評価に基づく高齢者の排尿自立支援」

採択年度 平成22年度

実装機関名 東京大学大学院

実装責任者 本間之夫

1. 概要

尿失禁は高齢者の抱える排尿障害の一つである。尿失禁への対処は多くの場合、排尿補助製品（オムツ、パッド等）に依存していると考えられる。尿失禁の原因を追究することなく無秩序に排尿補助製品に依存すれば、介護負担の増加や高齢者の「生活の質＝QOL」の低下を招くだけでなく、本来可能なはずの自立排尿を諦めさせ、高齢者の生活の質を低下させることに繋がると考えられる。本研究では既に研究成果が確認されている「排尿機能評価に基づいた高齢者の排尿管理」を実装し、高齢者の排尿自立・QOL向上と介護負担の軽減を図ることを目的として、平成22年10月から活動を開始している。

2. 実装活動の具体的内容

(1) 全体計画

項目	平成22年度 (6ヶ月)	平成23年度	平成24年度	平成25年度 (6ヶ月)
排尿補助製品使用実態調査	←→			
高齢者排尿機能評価		←→		
QOL評価	←→			
合理的な排尿機能評価法の開発・普及	←→			
まとめ				←→

(2) H23年度研究計画と進捗状況

項目	H23年度研究計画	実際の進捗状況
1	平成23年4月～7月末 高齢者排尿補助製品使用実態調査及び介護者QOL調査の取り纏め (1次調査)	平成22年12月09日 高齢者排尿補助製品使用実態調査及び介護者QOL調査を発送。 平成23年6月24日～11月25日 4週間毎に実装担当者懇談会を開催。1次調査の粗解析、2次調査の進め方について議論した。 平成23年9月15日 介護者1次QOL調査集計完了（306名）。 平成23年10月14日 高齢者排尿補助製品使用実態調査集計完了（全体で640名分のデータを集積。要介護度、認知機能

実装支援プログラム 年度報告書 様式

		<p>などのデータ提供に応じた対象者数は243名に留まった)。</p> <p>平成24年1月16日</p> <p>1次調査研究成果学会報告のため、「高齢者排尿自立支援(第一報)」と題した演題を第25回日本老年泌尿器科学会(平成24年6月1日2日、於:徳島市)に応募。排尿自立者と排尿補助製品使用者の2群に分けて名義ロジスティック解析による多変量解析を行った結果、排尿補助製品使用に統計学的有意に寄与する因子は、障害高齢者の日常生活自立度、Vitality Indexの排泄意欲、リハビリ・活動の意欲であった。</p>
2	平成23年8月～平成23年3月末 排尿補助製品使用者に対する介入(2次調査)	<p>平成23年7月22日～9月20日</p> <p>排尿補助製品使用者に対する介入(2次調査)対象者の選定、調査の進め方に対するミーティングを実施。</p> <p>平成23年11月17日～現在</p> <p>排尿補助製品使用者に対する介入(2次調査)を開始。</p>
3	合理的な排尿機能評価法の開発・普及	<p>平成23年3月10日～8月1日</p> <p>平成21年度 日本老年泌尿器科学会研究助成「機能評価に基づいた高齢者の排尿管理に関する研究」(研究代表者:岩坪暎二、研究分担者:本間之夫ほか)について、統計解析ならびに報告書作成に従事。</p> <p>実装活動2次調査実施に向けて調査項目追加・調整に活用。</p> <p>平成23年8月2日～現在</p> <p>同研究に関して、英文誌投稿用論文作成中。</p>

3. 理解普及のための活動とその成果

(1) 展示会への出展等

該当なし。

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
平成23年5月28日～29日	第24回日本老年泌尿器科学会	名古屋市	高齢者排尿支援に関する演題発表者との意見交換。 (120演題) 参加者：約800人		
平成23年6月24日	湖山グループ懇談会-1	特別養護老人ホーム カメリア (江東区亀戸3-36-5)	1次調査進捗状況の確認、実装活動推進のための懇談会 同意取得方法、説明の仕方についてレクチャー実施 参加者：8名		
平成23年7月22日	湖山グループ懇談会-2	特別養護老人ホーム カメリア	1次調査進捗状況の確認、実装活動推進のための懇談会 同意書取得状況確認 参加者：11名		
平成23年8月26日	湖山グループ懇談会-3	特別養護老人ホーム カメリア	1次調査進捗状況の確認、実装活動推進のための懇談会 2次調査の進め方についてレクチャー 参加者：14名		
平成23年9月9日	めぐみ懇談会-1	介護老人保健施設 めぐみ (江戸川区東小松川2-7-1)	1次調査進捗状況の確認、実装活動推進のための懇談会 同意取得方法、説明の仕方についてレクチャー実施 参加者：5名		

実装支援プログラム 年度報告書 様式

平成23年9月 20日	めぐみ懇談会-2	介護老人保健 施設 めぐみ	1次調査進捗状況の確認、実装活動推進のための懇談会 残尿測定器の使用方法に関するレクチャー実施 2次調査の日程調整 参加者：5名		
平成23年9月 30日	湖山グループ懇 談会-4	特別養護老人 ホーム カメ リア	1次調査進捗状況の確認、実装活動推進のための懇談会 1次調査の粗解析結果報告 参加者：11名		
平成23年11月 25日	湖山グループ懇 談会-5	特別養護老人 ホーム カメ リア	1次調査進捗状況の確認、実装活動推進のための懇談会 2次調査実施日程の相談 参加者：9名		

(3) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

- ①新聞報道 該当なし
- ②TV放映 該当なし
- ③ラジオ報道 該当なし
- ④雑誌掲載 3件

1) 2011. 6. 1 南山堂 治療

尿失禁の診かた コラム：尿失禁を科学する－多業種で
取り組むおむつ外し－（鈴木基文、井川靖彦、本間之夫）

2) 2011. 10. 22 日本医事新報社 日本医事新報

老年内科標榜をめざして 7. 尿失禁の臨床－老年症候群各論③
（鈴木基文、本間之夫）

3) 2011. 11. 15 医学書院 JIM (Journal of Integrated Medicine)

知っておくべき高齢者の評価法 尿路（前立腺） IPSS, CLSS
（細田千尋、鈴木基文、井川靖彦、本間之夫）

(4) 論文発表（国内誌 0 件、国際誌 1 件）

Naruse T, Nagata S and Homma Y: Prevalence of individuals receiving
elimination assistance among Japanese community-dwelling elderly. Int J
Urol. 18: 873-4, 2011.

(5) WEBサイトによる情報公開

該当なし

(6) 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

①招待講演（国内会議 1 件、国際会議 0 件）

第61回日本泌尿器科学会中部総会 京都市

平成 23 年 11 月 17 日（木） 15 : 55 ~ 17 : 25

第 1 会場 源氏の間（東・南）/ ホテルグランヴィア京都 3F

「Medical urology の今後の新たな展開について」

座長 市立豊中病院 清原 久和

排尿管理について 東京大学 本間 之夫

②口頭講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

③ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

(7) 特許出願

①国内出願（ 0 件）

②海外出願（ 0 件）

(8) その他特記事項

対象者からの同意書取得状況：243件